

森 里山みらい報

(第1号)

この森を育み、この森と生きる。
角間里山みらい
特定非営利活動法人
〒920-1301 金沢市永安町77
電話・FAX 076-258-5338
メールアドレス: npo@setoyamamirai.jp



人工林の「調査林」内で、杉などを計測する参加者

ボランティアで「森の健康診断」

いま里山はどうなっているか

金沢大学 角間里山 人工林の見方を楽しく学ぶ

「NPO法人角間里山みらいは10月27日、金沢大学角間の里山で「森の健康診断」に取り組みました。日本財団などの助成事業として行っているシリーズ「達人か

「森の健康診断」とは

「森の健康診断」は2000年の東海豪雨禍をきっかけに始まりました。愛知、岐阜などを流れる矢作(やはぎ)川流域の放牧人工林で実施したのを手始めに、9年たった現在は全国に広がっています。人工林を水源林や防災林として保つために「どのように間伐すればいいのか」。こうした問いに、ボランティアによる、広域でいっせいに測定したデータを集めることで説得力を増し、行政施策に取り込む自治体もできています。

マニュアルに基づき

3つのグループにわかれ、尾根、平地、斜面、それぞれ杉の人工林で、植生などの計測、観察による調査を開始。「森の健康診断」の経験者をリーダーに、役割分担をしながら「マニュアル+調査票」にそって進めました。



採集した草木などを持ち帰って調べる

調査方法は、だれもがどこでも行えるようにと、丹羽さんらの研究者と森林ボランティアが話し合ってきたもので、百円ショップで購入したものなど、簡単な道具をつかい、杉の混み具合や植物の種類、土壌の厚さなどを調べました。

里山みらい 企画室を開設

当NPO法人の企画室(事務所)を8月、金沢市末町に開設しました。

「健康な人工林」「不健康な人工林」を「5感」と「数値」でつかむというのが、もともと「森の健康診断」ですが、今回は初心者にもわかるように、調査地点も便宜的に設定しました。それでも「森好き」には「楽しくてためになる」と好評でした。

場所は、金沢森林組合(永安町)ちかくの同組合緑化木センター2階です。金沢市の地域雇用創出事業にもとづき、2名(越石あきこ・コディネーター、木村明子・プランナー)が常駐しています。お近くにお越しの際は、お気軽にお寄りいただき、ご指導や激励をお願いします。(所在地は〒920-1302 金沢市末町12-148-1 金沢森林組合緑化木センター) 電話、メールアドレスは、題字横のものとおなじです。



「どんぐりトロ」の置物をつくる=金大「角間の里」

多彩なメニューで角間里山まつり

家族らつどい「四季の森 歩育楽校」

金大祭の開催にあわせた第3回角間里山まつり(金沢大学角間里山本部、歩育推進ネットワークいしかわ実行委共催)は、11月2、3日、金大角間キャンパスでおこなわれ、子供から年配者までの市民や学生らの来場者でにぎわい、里山のめぐみに親しみました。

まつりの開会式では、「おんぼろ」とアルプホルン金沢が、杉の間伐材でこしらえたホルンを演奏。来賓の中村信一(金大理事長)が「これからの里山づくりのビジョンが共有される機会となることを期待します」とあいさつしました。



「四季の森 歩育楽校」の子どもたち

山の恵みを販売

まつりの「里山体験」(県央農林総合事務所)の「子ども森の恵み推進事業」では3日、ハイクンギ姿の親子が「四季の森 歩育楽校」で里山を歩き、拾い集めたどんぐりの苗づくりをしました。



拾い集めたどんぐりで苗づくり

また、近くの里山の一角を、再び畑に戻すための竹切り作業もあり、熟年夫婦もまじって、専門家から竹

んでいる燃料回収や公害対策などの研究や応用の実例をかたりました。研究者による初日の「里山生き物講座」も人気をあつめました。



金大祭のキャラクター「おんぼろ」

地域連携を強化 通常総会を開く

NPO法人角間里山みらいの通常総会は6月27日、記念館「角間の里」で開き、大学、企業、NPO、行政、住民など、地域連携による里山の利活用と保全活動にとりくむとともに、認定NPOの申請をめざし、活動の強化などを話しあいました。写真。



総会には20人あまりの理事、会員らが出席、三橋俊一理事長が「初年度は啓発普及事業にとどまったが、今年度は行政各位や日本財団などのご理解により、事業内容がふくらんだ」とあいさつ。

また、大学構内の里山でおこなう事業に関し、金沢大学角間里山本部とのあい

の伐採と片付けの手ほどきを受けました。このほか木工品や山野草にくわえ、手作りケーキ、有機栽培の野菜、山菜おこわ、特製きのこ汁、シイタケ、ギンナンの即売も人気をあつめました。(角間里山まつり)の連携団体は、角間の里山メイト、山形の村いしかわ里山保全活動リーダー会、医王の森自然学校、製菓の会、里山サークル、ラクーン。協力は、金沢森林組合、金沢林業大学校、金沢市林業振興協議会、NPO法人石川郡ウオーキング協会、別所竹加工生産組合、金沢産物組合、金沢キナン生産組合、よつば会、もりらべ、林業女子会(石川)、後援:北国新聞社、北越放送。

シリーズ「達人から学ぶ」各地のさががけを紹介

ふだんの生活の中で、私たちと森や里山との関係を考える機会がなくなりつつあります。

私たちは自然の一部として、自然に生かされていることを再確認してみませんか。

「もっと森に入って、森を感じて、森を好きになってほしい」。そんな思いから、「森に入ろう。プロジェクト」をスタートさせました。

そのなかのシリーズ「達人から学ぶ」の来年1月以降の予定は次の通りです。(詳しくは事務局へ)

と き/平成26年1月11日(土)13:30~、12日(日)10:00~
 場 所/金沢市学生のみち市民交流館(金沢市片町)
 テーマ/「里山ビジネス~森をいかに、人をいかに」
 講 師/牧 大介氏(岡山県・(株)西栗倉・森の学校代表取締役)

と き/平成26年1月25日(土)13:30~26日(日)13:00 泊2日
 場 所/金沢市キゴ山ふれあいの里研修館
 テーマ/「害獣? ジビエ~森が育む命は害獣なのか? 地域資源としての獣肉を見直す」
 講 師/藤原 誓氏(京都府・田歌會代表)
 米田岳人氏(金沢市・(株)ぶどうの木総料理長)

と き/平成26年2月23日(日)
 場 所/(未定)
 テーマ/「自然災害とボランティア」
 講 師/北川健司氏(岐阜県・NPO法人広域防災水難救助捜索支援機構理事長)

と き/平成26年3月1日(土)13:30~、2日(日)10:00~
 場 所/(未定)
 テーマ/「環境教育~個人事業をつくる」
 講 師/西村仁志氏(広島修道大人間環境学部准教授/環境共育事務所カース代表)

「達人から学ぶ」はこんな人にオススメです!

- 森や里山に興味がある人
- 子どもに森の大切さを伝えたい人
- 新しいことにチャレンジしたい人
- 森や里山で汗を流し、社会に貢献してみたい人
- 環境教育を学び、実践したい人

金沢市は市民参加型の協同事業として、森林整備と地域活性化をめざし「金沢・木の駅プロジェクト」(運営:角間里山みらい)を12月をはじめ、試験的にこころみまします。

その実施にむけた説明会が10月26日、金沢森林組合であり、丹羽健司さん(NPO法人地域再生機構 木の駅アドバイザー/1面の「森の健康診断」参照)が、「木の駅プロジェクト」の理念



「森の駅」の取り組み前に説明会=金沢森林組合

「木の駅」を試験実施

とやり方を具体的に講演し

「木の駅」事業は全国の約30カ所でおこなわれていますが、県内では初めてです。

山主が運び出す間伐残材などを決められた場所(木の駅)に集め、地域通貨券(今回は1立方メートルあ

山と村をつなぐ

ました。

林家や行政関係者、薪ユザーら40人あまりが出席、奥能登からの参加者も、ぜひ試みたいと意欲をもらっていました。

金沢での説明会で丹羽さんは、山と村をつなぐのが「木の駅」が消えれば森は残らない。「木の駅」の取り組みは町づくりの取り組みです」と強調しました。



そろいのシャツで、いざ出発

戸室山や医王山をめぐる約30キロで金沢トレイル

里山を身近に感じてもらう「金沢トレイル・ちよー!」の新しい体験版は、9月

21日から23日にかけて行い、34人が約30キロの中山間地歩行にいとみましました。

参加者は金沢城公園から卯辰山・角間の里・戸室山を経て、医王の里オートキャンプ場宿泊。2日目は夕暮時、奥医王山・横谷峠などをめぐったあと、湯涌温泉を経て、ふたたび医王の里で交流夕食会などを持ちました。3日目は里山の保全や活用などの意見交換会などを開きました。

地域がかわりあう形で、歩く文化を根づかせていきたい」と呼びかけました。

地域まじえて連携協議会も

全長約70キロの「金沢トレイル」コースの維持管理をめざし、地元町会などの関係団体は、年度内にも金沢トレイル連携協議会を設立することとしています。

9月の「トレイル」は金沢市里山活用推進事業の一環で、金沢トレイル実行委員会(協力は金大角間里山本報、県ウオーキング協会、県ノルディックウォーキング協会、いしかわ里山保全活動リーダー会、金沢森林組合、好日山荘、後援:北国新聞社、北陸放送)

特定非営利活動法人角間里山みらいと金沢大学角間里山本部との覚書

金沢大学角間里山本部(以下「甲」という。)と特定非営利活動法人角間里山みらい(以下「乙」という。)は、甲が管理するキャンパスで乙が実施する事業に関し、次のとおり覚書を締結する。

(目的)
 第1条 本覚書は、乙が、甲が管理する角間キャンパス内の里山ゾーンにおいて、次条第1項各号に定める事業を行う場合に必要となる事項を定めることを目的とする。

(乙の事業内容等)
 第2条 乙は、次の各号に掲げる事業を行うものとする。
 (1) 里山を保全・活用するための事業
 (2) 1号をとおした人材育成事業
 (3) 1号に関する情報発信事業
 2 乙は、事業を行うにあたり金沢大学の関係規程、規程等を遵守するものとする。
 3 事業により発生した知見、成果物等の帰属については、甲と乙で協議の上、別途決定する。

(事業計画の申請等)
 第3条 乙は、事業を行う年度の前年度の12月末日までに当該年度の事業計画(申請書(別紙様式1))を提出しなければならない。また、事業を行った年度の翌年度の6月末日までに当該年度の事業報告書(別紙様式2)を甲に提出しなければならない。
 2 乙は、前項により提出した事業計画書に変更が生じた場合は、速やかに事業計画変更届(別紙様式3)を甲に提出するものとする。
 3 乙は、事業計画にある各行事等の具体的な計画を立案した場合は、その都度、その計画を任意の様式で甲に提出するものとする。

(事業計画の許可)
 第4条 甲は、前条により提出された事業計画を甲の運営委員会において審査し、事業実施の許可を決定し、事業実施許可等通知書(別紙様式4)により乙に通知するものとする。

(覚書の有効期間)
 第5条 本覚書の有効期間は、本覚書締結の日から平成28年3月31日までとする。ただし、期間満了の3か月前までに、甲又は乙が相手方に対し解除又は変更の意思表示をしない場合は、本覚書の有効期間は3年間延長されるものとし、以後も同様とする。

(事業の中止)
 第6条 甲は、乙が行う事業が、大学の教育、研究に支障があると判断した場合は、乙に事業の中止を求めることができる。

(乙の義務)
 第7条 乙が事業を行うに当たって、乙は次の各号に定める義務を負う。
 (1) 事業実施中の事故に備えて、賠償責任保険及び事業参加者(協力企業等の参加者を含む。以下同じ)の傷害保険に加入し、発生した事故に対しては自己の責任において対応しなければならない。
 (2) 故意または過失により金沢大学に損害を与えたときは、金沢大学に対して損害を賠償しなければならない。
 (3) 事業参加者が第三者(金沢大学の職員を含む。以下同じ)に損害を与えたときは、第三者に対して損害を賠償しなければならない。
 (4) 事業の参加者が第三者に与えた損害により、金沢大学が第三者に対し損害賠償の責を負った場合は、当該賠償により金沢大学が被った損害の補てんをしなければならない。

第8条 乙が次の行為を計画する場合は、その都度 甲と協議しなければならない。
 (1) 野外における動植物の採取、持ち込み・植え込み、火の取用、看板・説明板の掲示。
 (2) 上記以外の行為については、甲と乙で協議の上、別途決定する。

(定めの事項)
 第9条 本覚書に定めなき事項については、甲乙双方が誠意をもって協議の上、処理するものとする。

この覚書は2通作成し、各自一通を保有する。

平成25年7月1日

住所 石川県金沢市水安町77番地
 役職 特定非営利活動法人角間里山みらい代表理事・理事長
 氏名(白署) 三輪 俊一

住所 石川県金沢市角間町
 役職 角間里山本部長
 氏名(白署) 梶井 善



遊歩道の整備や不法投棄防止看板を更新

角間里山みらいは11月から、金沢大学キャンパス遊歩道の整備をすすめています。

同大角間キャンパスは、74ヘクタールの里山ゾーンが広がっています。この環境資源を保全するため、約4キロの遊歩道で、草刈りや枯損木(こそんぼく)などを取り

除き、歩きやすくするものです。

林野庁の支援を受けた事業です。

また、金沢市からの委託をうけ、不法投棄防止看板の更新作業もすすめています。冬のあいだに山間地や海岸沿いに設置されている175カ所の看板を新しくします。

このほか以下の催しに参加、協力などをおこないました。

「北陸三県里山地域バイオマス活用セミナー」(11月15日、金沢大学角間里山ほか)「難走町 山の灯り」(交流まつり)「11月17日、金沢市東区」(森づくり)「11月17日、市民交流館」(11月23日、金沢市学生のみち市民交流館)「フアイヤーフニス金沢2013」(薪vsバレット)「12月8日、金沢森林組合緑化センター」

PRポスターを制作



当NPO法人のPRポスター11写真をつくりました。制作はクリエティブアイレクター、コピーライター江口誠さん(東京)とアートディレクターの西田英一さん(金沢)。金大創立五十周年記念館「角間の里」の写真に、角間の里山で採集した草木や昆虫で「森に入ろう」をデザイン。各種のイベントにくわえ、同大内にも掲示してもらっています。

里山で実習体験

角間の里山で、収穫や創造にむけての知恵や技術を身につけてみませんか。

「山里の村」が、畑や田んぼ、山仕事の実習希望者を募っています。参加費はいりません。月2回程度(毎同日曜日の午前10時から約2時間)、金大の記念館「角間の里」とその周辺で実施。高校生以上の生徒、学生、大人を対象に、12月は薪づく

りや炭づくりを予定しています。いずれも「山里の村」代表の畑尾均さん(金沢市)が講師になります。

参加希望や問い合わせは、NPO法人角間里山みらい事務局へ。